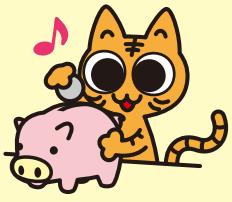


「おこづかい帳」を学んで“お金名人”をめざそう！

「おこづかい帳」は、おこづかいをもらったり、何かを買ったりした際に、お金の出入りを記録しておくものです。「おこづかい帳」をつけると、今いくらお金があるのかが分かるだけでなく、上手にお金を使うためのいろいろな発見もあります。さあ、「おこづかい帳」のつけ方を学んで、“お金名人”をめざそう！



学校 年 組 名前

ワーク1

「おこづかい帳」をつけてみよう



がつ
月

こん げつ もくひょう 今月の目標

例 えん おかしは300円までにする

書き方のヒント

月の初めに前月の「残ったお金」を記入しよう

なに つか わず つか らん ふ めい か きんがく き じゆう
ヒント② 何に使ったか忘れたときには、「なんで(もらった・使った)」の欄に「不明」と書いて、金額を記入しておこう

ヒント③ 月の最後に1ヵ月間で入ったお金(収入)、出たお金(支出)、残ったお金がいくらになったのか
「合計」を計算しよう

ワーク2

「おこづかい帳」を見て、1カ月を振り返ってみよう

① 「貰ってよかったもの」を書こう

（用紙）

② 「買わなければよかったもの」を書こう

（用紙）

③ 「おこづかい帳」をつけて、気がついたことを書こう

（用紙）

番外編①

おうちの人に感想を書いてもらおう

（用紙）

番外編②

おうちの人とお金を使うときの約束を話し合おう

（用紙）

よく頑張ったね！これからも
「おこづかい帳」を続けよう！



保護者の方へ

最近はプリペイドカードなど「見えないお金」が普及したこと、お金を支払うという感覚を持ちにくくなっています。一方で、(図1)のように昔に比べて、子どもが買うものも、目に見えて残る「マンガ」などから、食べてなくなってしまう飲食などの「見えにくい支出」に変化。「見えないお金」「見えにくい支出」は、気が付いたらおこづかいがなくなっていて、何に、いくら使ったかわからない…ということになります。

お金を上手に使える大人になるためには、おこづかい帳で「お金の出入りを記録し、振り返り、次に活かす…」という経験が大切。(図2)からも、おこづかい帳を付けている子のほうが、お金の使い方をよく考えていることがわかります。

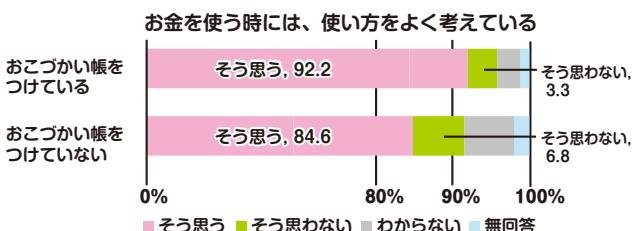
おこづかい帳は、お金上手への第一歩。無駄遣いを叱るのではなく、「お金の使い方を子どもと一緒に振り返り、よりよいお金の使い方を考えられる人になるよう、子どもの成長を温かく見守っていきましょう。

(図1) おこづかいの使い道ベスト3 <複数回答>

順位	1988年		2015年	
	小学生	中学生	小学生(高学年)	中学生
1位	マンガ雑誌	マンガ雑誌	1位	おかしやジュース
2位	食べ物	食べ物	2位	ゲームソフトやおもちゃ類
3位	貯金	音楽 映画	3位	マンガ

(総務庁青少年対策本部「非行原因に関する総合的研究調査(第3回)」1999年)
(金融広報中央委員会「子どものくらしとお金に関する調査」(第3回)2015年度調査)をもとに作成
※小学生の調査項目は友達の関わりの有無を問わず、飲食はすべて「おかしやジュース」
※中学生はお小遣いで貰ったり、支払ったりすることが「よくある」「ときどきある」の合計

(図2) おこづかい帳とお金の使い方 <小学校高学年>



(金融広報中央委員会「子どものくらしとお金に関する調査」(第3回)2015年度調査をもとに作成)